再発見 国の重要文化財 黄林閣

国の重要文化財が市内にあることを知っていますか？そのうちの一つ、黄林閣は、「電力の鬼」とも言われた実業家松永安左エ門の旧別荘「柳瀬荘」にあります。

江戸時代天保期に建てられ、農村の面影を残す

もともと黄林閣は、柳窪（現在の東京都東久留米市）の大庄屋であった村野家の住居として、江戸時代の天保15年（1844年）に建てられました。その後、昭和5年（1930年）に松永氏が譲り受け、現在地に移築されました。建ちが高く、座敷回りの天井も高いことが特徴です。当時の特色をよく残しているものとして、昭和53年（1978年）に国の重要文化財となりました。

現在は東京国立博物館が所管

黄林閣を含む柳瀬荘は昭和23年（1948年）に東京国立博物館に寄贈されました。黄林閣以外にも「斜月亭」は昭和14年（1939年）に完成した書院造りの建物です。茶室の「久木庵」は、江戸初期の建物を建て替えて作られました。

◀建物の中には原則入れませんが、外から伺い知ることができます。また豊かな緑の残る広大な敷地は武蔵野の面影を感じさせます。

開館日時・アクセスについては中面をご覧ください。

問柳瀬荘☎2944-2009※開館日のみ
東京国立博物館☎03-3822-1111（代表）